

科学教育研究レター



目次

■ 日本科学教育学会創立 50 周年 記念事業企画・実行委員会	2	■ 国際交流委員会だより	28
記念誌・シンポジウム部門		国際ランチョンミーティングのお知らせ	
科学教育啓発活動・イベント部門		2026 年度第 1 回日本科学教育学会研究会（国際 交流委員会開催）開催予告	
■ 年会	5	国際学会開催情報	
第 50 回年会開催案内（第 5 次）		■ 若手活性化委員会だより	31
■ 支部・研究会だより	25	第 50 回日本科学教育学会年会若手企画（予告）	
2025 年度研究会開催のお知らせ		若手研究者、「初心」を語る	
■ 調査研究・学術交流	26	■ 編集委員会だより	35
2026 年 教科「理科」関連学会協議会 （CSERS）シンポジウムのご案内		2025 年度第 3 回編集理事会報告	
		特集投稿募集のお知らせ	
		「科学教育研究」編集状況報告	
		■ 広報委員会からのお知らせ	40

記念誌・シンポジウム部門

「科学教育研究の多様性と今後の展開」をテーマに、創立 50 周年記念シンポジウムを開催します。登壇者のみなさまから科学教育研究の現在地と課題、そして未来への展望についてご発表いただくとともに、参加者との対話を通して、学会として多様性をどのように受け止め、研究の方向性や共通基盤、さらには次世代の社会や産業の発展を支える科学技術人材をどのように育成するのかを、共に考える場としたいと考えています。

- ・ 日 時：2026 年 9 月 12 日（土）午後（150 分）
- ・ ところ：東京大学 駒場地区キャンパス
- ・ 登壇者：大島まり 氏（東京大学生産技術研究所教授）
小川義和 氏（立正大学教授、前日本科学教育学会会長）
田熊美保 氏（OECD 教育局シニア政策アナリスト）
榊 太一 氏（同志社大学ハリス理化学研究所）
渡辺 美代子（特定非営利活動法人ウッドデッキ）

隅田学 氏（モデレーター）（日本科学教育学会会長）

科学教育啓発活動・イベント部門

一般社団法人 日本科学教育学会では、第 50 回年会において、学会創立 50 周年を記念する行事として「記念シンポジウム」「ラウンドテーブル」と「小中高生の探究発表」を開催します。

また、国際交流委員会が開催する「国際ランチョン・ミーティング」に中学生・高校生も参加できるよう企画しております。

最新情報は、年会サイト内の特設ページ <https://jsse.jp/jsseam/jsse50/jsse50th-event> に掲載します。

右の QR コードからも、年会サイト内の特設ページにアクセスできます。



会場：東京大学 駒場キャンパス（〒153-8505 東京都目黒区駒場 4-6-1）

https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/campus-guide/map02_02.html

※「ラウンドテーブル」「小中高生の探究発表」「国際ランチョン・ミーティング」それぞれ申込先、問合せ先が異なりますのでご注意ください。

【ラウンドテーブル】

学会員、教育関係者、一般の方、高校生、中学生が一緒になって、未来の社会をみつめ、科学と教育

について議論するラウンドテーブルです。

[テーマ] 科学と教育と多様性

[日 時] 2026年9月13日(日) 13:00~15:00

[対 象] 学会員, 教育関係者, 一般の方, 高校生, 中学生

[参加申込締切] 2026年8月13日(木) (先着50名)

ファシリテーターをしてくれる方も募集しています。申込の際に希望欄を選択してください。中学生・高校生がファシリテーターとして参加することもできます。

[参加費] 中学生・高校生(引率教員や保護者の見学を含む)は無料

学会員を含むその他の方は、ラウンドテーブルの参加申込とあわせて、第50回年会の参加申込(有料)が必要です。年会のすべてのプログラムに参加できます。

[参加費] 中学生・高校生(引率教員や保護者の見学を含む)は無料

学会員を含むその他の方は、ラウンドテーブルの参加申込とあわせて、第50回年会の参加申込(有料)が必要です。年会のすべてのプログラムに参加できます。

[問合せ先] jsse_roundtable [アット] nacos.com ([アット]を @ に変更して下さい)

[参加申込] [ラウンドテーブル参加申込サイト](#)

【小中高生の探究発表】

小学生・中学生・高校生のみなさんが、日頃の探究の成果を学会で発表する場です。年会のインタラクティブセッション(研究者や大学生・大学院生のポスター発表)と一緒に開催します。学会員のみなさまは、小学生・中学生・高校生の探究発表を聞いて、是非、コメントやアドバイスをお願いします。

[日 時] 2026年9月13日(日) 9:00~11:00

[対 象] 小学生, 中学生, 高校生

[募集件数] 合計50件(同一の学校は5件程度)

[発表形式] ポスター発表(サイズA0) ポスターを作成して、発表当日に持参してください。

[発表・参加申込締切] 発表申込: 2026年6月19日(金)

参加申込: 2026年8月13日(木)

[参加費] 小学生・中学生・高校生(引率教員・保護者を含む)は無料

インタラクティブセッションへの参加も含まれます。

引率教員・保護者が第50回年会の他のプログラムに参加する場合は、中高生の探究発表の参加申込とあわせて年会参加申込(有料)が必要です。年会のすべてのプログラムに参加できます。

[問合せ先] jsse_presentation [アット] nacos.com ([アット]を @ に変更して下さい)

[発表・参加申込] [小中高生の探究発表 発表・参加申込サイト](#)

※小学生・中学生・高校生は年会のすべてのプログラム(9/11-13の3日間)に無料で参加できますが、教員や大人が引率してください。

【国際ランチョンミーティング】

年会2日目の9月12日(土)昼食時間に、国際交流委員会が「国際ランチョンミーティング」を開催します。海外からの留学生や訪問者も含め、学会員と一般参加者が、海外の学会での発表経験や国際的な科学教育研究について語り合う機会です。第50回年会では中学生・高校生の参加も可能です。

[日 時] 2026年9月12日(土) 12:30~13:45

参加方法等の詳細はこのレターの「国際交流委員会だより」をご覧ください。

<https://jsse.jp/jsseam/jsse50>.

第 50 回年会 開催案内 (第 5 次)

年会企画委員会・年会実行委員会

1. 年会テーマ：科学教育研究の半世紀とこれから
2. 日程：2026 年 9 月 11 日（金）～13 日（日）（3 日間を予定）
3. 会場：東京大学 駒場Ⅱリサーチキャンパス
（〒153-8505 東京都目黒区駒場 4-6-1）
<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/access/>
4. 主催：一般社団法人日本科学教育学会
5. 共催：東京大学生産技術研究所，東京大学先端科学技術研究センター
6. 後援：文部科学省，東京都教育委員会（申請中），目黒区教育委員会（申請中）
7. 連絡先：日本科学教育学会第 50 回年会実行委員会
E-mail：jsse50(atmark)iis.u-tokyo.ac.jp ※(atmark)を@に変換してください.
8. スケジュール概要（予定）※プログラム編成により変更になる場合があります。

11 日（金）	午前：研究発表
	午後：研究発表 理事会（改選前）顧問・理事・支部長・代議員合同会議
12 日（土）	午前：研究発表 招待講演
	午後：代議員総会・表彰 50 周年記念シンポジウム 懇親会
13 日（日）	午前：研究発表
	午後：理事会（改選後） 研究発表（申し込み状況により設定）

*その他，50 周年記念企画，各委員会による企画，各委員会の会合等があります。

9. タイムテーブル（予定） ※プログラム編成により変更になる場合があります。

タイムテーブル

1日目 9月11日(金)		2日目 9月12日(土)		3日目 9月13日(日)				
8:30		受付 8:30-		受付 8:30-		8:30		
9:00		課題研究 9:00-11:00	一般発表 9:00-11:00	インタラクティブ セッション / 創立50周年記念行 事「小中高生の探究 発表」 9:00-11:00	課題研究 9:00-11:00	一般発表 9:00-11:00	9:00	
9:30	受付 9:30-						9:30	
10:00	課題研究 10:00-12:00	一般発表 10:00-12:00					10:00	
10:30							10:30	
11:00		休憩					11:00	
11:30		招待講演(科学教育研究セミナー)1 11:15-11:45		理事会(改選後) 11:15-12:45			11:30	
12:00	昼食・各種委員会 12:00~13:00		招待講演(科学教育研究セミナー)2 11:15-12:15				12:00	
12:30		休憩					12:30	
13:00	課題研究 13:00-15:00	昼食・各種委員会 12:30-13:45		国際ランチョン ミーティング 12:30-13:45	創立50周年記念行 事「ラウンドテーブ ル」 13:00-15:00	課題研究 13:00-15:00	一般発表 13:00-15:00	13:00
13:30		総会・表彰 13:45-15:15						13:30
14:00								14:00
14:30								14:30
15:00	休憩		休憩		休憩		15:00	
15:30	理事会(改選前) 15:15-17:15	若手活性化 委員会企画 チュートリアル 15:15-17:15		創立50周年記念シンポジウム 15:45-18:15		課題研究 15:15-17:15	一般発表 15:15-17:15	15:30
16:00								16:00
16:30								16:30
17:00								17:00
17:30	顧問・理事・支部長 代議員合同会議 17:30-19:30			年会実行委員会・ 年会企画委員会合同会議 17:30-18:30				17:30
18:00		若手活性化委員会 企画 スタートアップパー ティ 18:00-20:00		移動				18:00
18:30								18:30
19:00				懇親会(会場:渋谷エクセルホテル東急) 19:00-20:30				19:00
19:30								19:30
20:00								20:00
20:30								20:30

10. 内容：次の内容を予定しています。

(1) 招待講演（科学教育研究セミナー）

招待講演（科学教育研究セミナー） 1

舟橋 友香（奈良教育大学）

題目「馴染みのない研究方法論を学ぶことで生じる科学教育研究者の変容」

招待講演（科学教育研究セミナー） 2

木村 優里（東京科学大学）

題目「進路選択における文系観・理系観の影響と「理系ではないというアイデンティティ」の獲得に関する研究について」

(2) 日本科学教育学会創立 50 周年記念シンポジウム

趣 旨：日本科学教育学会は、これまで半世紀にわたり、科学教育の学術的発展と教育実践の改善に貢献してきました。この 50 年の歩みの中で、科学教育研究は、認知科学、学習科学、社会文化的アプローチ、リテラシー、ジェンダー、インクルーシブ教育、市民性教育、持続可能な開発のための教育 (ESD)、さらには STEM/STEAM など、多様な視点・テーマへとその射程を拡げてきました。また、学問の国際化も進展する中で、科学教育研究においても国際的視野を持ち、多文化的文脈を踏まえた知の創出が不可欠となっています。こうした学術的多様性は、科学教育が、単なる知識伝達にとどまらず、複雑化・多様化する社会において、科学的に思考し、判断し、行動できる市民を育成する営みであることを示しています。

一方で、多様な研究の進展によって、研究の断片化や専門分化の加速を招き、教育実践との接点が見えにくくなるという課題も指摘されています。異なる研究領域がいかにして互いに補完・連携し、共創的な教育実践へと結びつくのか、また、生成 AI の出現・発展など急速な社会変化や地球規模の課題に対し、科学教育研究がいかなる社会的要請に応え、どのような未来を切り拓いていくのか、いま改めて問われています。

本シンポジウムでは、「科学教育研究の多様性と今後の展開」をテーマに掲げ、異なる研究領域の第一線で活躍する研究者やアナリストをお迎えし、それぞれの視座から科学教育研究の現在地と課題、そして未来への展望についてご発表いただきます。登壇者同士の対話に加え、参加者との対話を通して、学会として多様性をどのように受け止め、研究の方向性や共通基盤、さらには次世代の社会や産業の発展を支える科学技術人材をどのように育成するのかを、共に考える場としたいと考えています。

テーマ：科学教育研究の多様性と今後の展望

登壇者：大島まり 氏（東京大学生産技術研究所教授）

(50 音順) 小川義和 氏（立正大学教授，前日本科学教育学会会長）

田熊美保 氏（OECD 教育局シニア政策アナリスト）

榊 太一 氏（同志社大学ハリス理化学研究所）

渡辺 美代子 氏（特定非営利活動法人ウッドデッキ）

隅田学 氏（モデレーター）（日本科学教育学会会長）

(3) 課題研究発表

※概要については、申請段階のものを掲載しています。

1. 次世代人材育成事業のその後を見据えた科学教育実践の課題と展望—地域密着型実践における制度化，修了生支援，個人研究への展開に着目して—

オーガナイザー：加藤晶（愛媛大学次世代人材育成拠点）

概要：本課題研究では，国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）事業の成果を個別に検証・評価することを目的とするのではなく，次世代人材育成事業の「その後」を見据えた科学教育実践の課題と展望を検討する．地域密着型実践に着目し，制度化，修了生支援，社会的インパクトを含む大学の役割を整理するとともに，各実践から得られる知見の個人研究への展開と，地域社会に根ざした持続的な人材育成基盤の形成について議論する．

<登壇者>

加藤晶（愛媛大学次世代人材育成拠点）

宮國泰史（琉球大学研究共創機構）

福本晃造（大阪教育大学理数情報教育系）

網本貴一（西南学院大学人間科学部）

<指定討論者>

古川雅英（琉球大学研究共創機構）

2. 次期学習指導要領に向けたデータ活用領域について

オーガナイザー：西仲則博（近畿大学）

概要：「データ活用」領域の教授・学習についての基礎的な研究や実践研究とともに，今後，重要視される統計的推論についての学習や ICT 活用等について，次期学習指導要領に向けた統計・確率教育への提案を行い，会場と議論を行う．

<登壇者>

和田聖国（長野市立古牧小学校）

西仲則博（近畿大学）

藤井良宜（宮崎大学）

青山和裕（愛知教育大学）

小口祐一（茨城大学）

新井仁（都留文科大学）

3. データ・モデル・モデリングを核として教科の本質性と学際性を創発する STEAM 教育

オーガナイザー：川上貴（宇都宮大学）

概要：教科カリキュラムでの STEAM 教育の推進には，STEAM 教科（算数・数学科，理科，技術科，情報科等）の本質的な概念やプロセス等の学びと，教科横断の学際的な学びの両立が欠かせない．我々は，STEAM 教科の中核であり各教科を貫く DaM2 概念—「データ(Da)」「モデル(M)」「モデリング(M)」—に焦点をあて，教科の本質性と学際性を創発する STEAM 教育の理論的，実践的研究に，分野を越えた研究者と教師が協働して取り組んでいる（基盤研

究(B), 25K00852). 本課題研究では, STEAM 教科の DaM2 概念に関するレビュー研究と授業実践研究の初年次の成果を報告し, STEAM 教育に関する今後の研究課題を議論する.

<登壇者>

川上貴 (宇都宮大学)
矢野修人 (お茶の水女子大学附属中学校)
大谷洋貴 (大妻女子大学)
石島隆志 (宇都宮大学)

<指定討論者>

土田理 (鹿児島大学)
佐伯昭彦 (金沢工業大学)

4. リスク社会に対応した数学教育のあり方に関する研究 (4)

オーガナイザー: 栢元新一郎 (静岡大学)

概要: 本研究の目的は, 小学校・中学校・高等学校における算数・数学を対象として, リスク社会に対応した数学教育のあり方を明らかにすることである. 本研究の成果は, リスクを理解し, リスクに対応できるコンピテンシーを備えた市民・人材の育成に繋がる. 本課題研究では, 「算数数学教科書の分析」「リスクを扱った教材開発と授業実践の分析」などを発表・議論する.

<登壇者>

西川洋一郎 (筑波大学附属高等学校)
牧之段拓 (つくばみらい市立陽光台小学校)
高山新悟 (浜松市教育委員会)
石綿健一郎 (世田谷区立梅丘中学校)
富田真永 (静岡県立静岡高等学校)

5. 中学校数学における探究的な学び実現する授業設計の要件

オーガナイザー: 佐藤寿仁 (岩手大学)

概要: 本課題研究では, 中学校数学における探究的な学びを実現する授業設計の要件を明らかにすることを目的とする. そのために, 探究的な学びのある授業とそうでない授業との違いを踏まえ, 数学的内容の扱いを明確にするために改善した『「探究的な学び」を考えるためのフレームワーク』を用いて, 「学習者」「教材に対して」「教師」の視点から授業の設計・実践・分析を行った. 4 地区での授業実践をもとに, 探究的な学びを支える授業設計の在り方を考察する.

<登壇者>

佐藤寿仁 (岩手大学)
西村圭一 (東京学芸大学)
林尚輝 (北海道教育大学附属旭川中学校)
矢口拓 (北海道旭川市立永山中学校)
谷地元直樹 (北海道教育大学)
今泉健汰 (山梨県甲斐市立双葉中学校)

清水宏幸（山梨大学）
次廣哲矢（静岡県沼津市立第四中学校）
岡田英祐（高知県四万十市立中村中学校）
圓岡悠（高知県四万十市立中村中学校）
服部裕一郎（岡山大学）
<指定討論者>
榎本哲士（信州大学）

6. 誤情報・偽情報時代に求められる科学教育の変革（2）

オーガナイザー：山口悦司（神戸大学）

概要：ポスト真実社会と呼ばれる現代社会が抱える深刻な問題の一つは、誤情報・偽情報の拡散である。この問題に対応するために、科学教育にはどのような変革が求められるのだろうか。以上の問いは、理科教育、サイエンスコミュニケーション、教育工学、数学教育、技術教育などといった個々の専門学会を越境する学際的な学会である日本科学教育学会においてこそ、集中的に議論されるべきであろう。本課題研究のセッションにおいては、2024年の年会で企画した課題研究「誤情報・偽情報時代に求められる科学教育の変革」の続編として、誤情報・偽情報に関する科学教育研究に先駆的に取り組んでいる会員からの話題提供に基づいて、誤情報・偽情報時代に求められる科学教育の変革についてセッション参加者全員で議論する。

<登壇者>

山本輝太郎（金沢星稜大学）
加納安彦（名古屋大学）
望月俊男（早稲田大学）
久保田善彦（玉川大学）
<指定討論者>
加納圭（滋賀大学）

7. 学習科学の研究領域を読み解く：科学教育の視点から

オーガナイザー：益川弘如（青山学院大学）

概要：学習科学は、科学教育と密接な関連のある研究領域である。本課題研究では、科学教育の観点から、この研究領域の展開を読み解くことを目的とする。過去には、2014年刊行の『科学教育研究』第38巻第2号において、学習科学をテーマとした特集が組まれた。そこでは、対談をベースとした招待論文を通して学習科学という研究領域の全体像が概観されるとともに、7編の論文を通して学習科学と科学教育との多様な関係性が提示された。この特集から10年以上経過した現在、学習科学の研究領域はさらに進展している。2022年に原著が刊行され、今秋に翻訳書が出版される学習科学ハンドブック第3版には、当該研究領域における近年の知見が体系的に収録されている。こうした近年の知見は、今後の科学教育へどのような示唆をもたらすのだろうか。本課題研究では、学習科学ハンドブック第3版の中から、とくに科学教育と親和性の高いトピックを事例に取り上げ、この問いをめぐる登壇者・指定討論者と参加者の全員で議論する。

<登壇者>

村津啓太（大阪信愛学院大学）

山路茜（岩手大学）

齊藤萌木（聖心女子大学）

<指定討論者>

松浦拓也（広島大学）

8. 幼児期からのサステナビリティ・コンピテンシー涵養と STEAM

オーガナイザー：大貫麻美（白百合女子大学）

概要：幼児期からのサステナビリティ・コンピテンシー涵養が期待される現代において、日本で理科の学習開始以前となる時期に着目し、その時期に育まれるべきコンピテンシーやその育成に資する科学教育について研究を進めてきた。教科・領域を横断した STEAM の要素を含む教育活動の成果や課題、今後の展望等について、国際的な動向や国内外の比較といったマクロな視点、国内実践事例分析といったミクロな視点の双方から多角的に議論を行う。

<登壇者>

大貫麻美（白百合女子大学）

走井洋一（立教大学）

西垣佳織（聖路加国際大学）

石沢順子（白百合女子大学）

三宅志穂（神戸女学院大学）

原口るみ（東京学芸大学教職大学院）

9. 幼児教育の「遊び」から小学校教育の「自己調整学習」の在り方を議論する

オーガナイザー：新井しのぶ（中村学園大学）

概要：小学校教育で広がりつつある自己調整学習は、教師の指導・支援と環境構成が課題となっている。一方、幼児教育においては、子どもが「遊び」を通して自己調整的に学ぶ姿が既に実現され、保育者は適切な援助と環境づくりを行っている。本研究では、幼児教育から小学校教育を接続する遊び、生活科、理科そして総合のつながりに着目し、「遊び」を起点とした自己調整学習の在り方について議論する。

<登壇者>

新井しのぶ（中村学園大学）

岡部舞（大阪教育大学）

小野寺かれん（岡山大学）

田中秀志（東京理科大学）

10. 日本の知識体系の多様性と科学教育：西洋科学との類比と対比（2）

オーガナイザー：加納圭（滋賀大学）

概要：科学に関わる日本の知識体系として「先住民の知識」、「日本土着の知識」、「西洋科学」がある。本課題研究では、多様な日本の知識体系を踏まえた科学教育の可能性を探究していく。その際、アイヌ民族の知識、琉球王国にルーツを持つ知識、伝統技術に基づく日本土着の知

識の例示も行う。なお、本課題研究のセッションは、2025年の年会で企画した課題研究「日本の知識体系の多様性と科学教育：西洋科学との類比と対比」の続編として実施される。登壇者らからの話題提供後、参加者の皆様と対話を行いたい。

<登壇者>

奥山英登（国立アイヌ民族博物館）

棚橋沙由理（筑波大学 先端教学推進機構）

山川結衣（南城市立玉城中学校・兵庫教育大学大学院 連合学校教育学研究科）

加納圭（滋賀大学教育学系・兵庫教育大学大学院 連合学校教育学研究科）

<指定討論者>

小幡哲士（NHK for School）

11. 科学哲学の視座から見た科学教育の諸相

オーガナイザー：雲財寛（広島大学）

概要：科学教育において科学哲学は主に科学という領域を特徴づける基盤として参照されてきた。

本発表は、科学哲学の視座から科学教育の諸相を捉え直すことを試みる。具体的には、理科教育の目的・目標論、教育内容としての科学哲学、科学教育のステークホルダーとしての企業、科学教育研究の科学性などについて、科学哲学者を交えて議論する。これらの諸相を分析することを通して、科学教育と科学哲学の新たな協働可能性を提示したい。

<登壇者>

雲財寛（広島大学）

中村大輝（宮崎大学）

袴田綾斗（愛知教育大学）

牧澤遼（兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科/川崎重工業株式会社）

<指定討論者>

伊勢田哲治（京都大学）

12. 数学教育におけるテクノロジー活用の将来像の考察 17

オーガナイザー：飯島康之（愛知教育大学）

概要：生成AIの機能が向上し教育にも大きく影響し始めている。伝統的な数学学習に関し、学習者が何をどのように学ぶか、教授者が何をどのように教えるかという点について再検討を促しつつあるが、一方で、テクノロジーと人間がインタラクトするからこそできる学びも広がりや深まりを変えつつある。本課題研究では、これまでの蓄積もふまえながら、こうした問題について考察してみたい。

<登壇者>

飯島康之（愛知教育大学）；

渡辺信（生涯学習数学研究所）

大西俊弘（龍谷大学）

戸田晃一（富山県立大学）

濱口直樹（長野工業高等専門学校）

芝辻正（芝浦工業大学柏中学高等学校）

野田健夫（東邦大学）

13. 数学教育に固有な非認知スキルに対する教師による評価の尺度開発

オーガナイザー：宮崎樹夫（信州大学）

概要：近年、非認知スキルは単に認知スキルの補佐的要素ではなく、IQ等の認知スキルと同等あるいはそれ以上に、多様なライフアウトカムを予測する可能性が指摘されている。しかし、非認知スキル評価の多くは汎用尺度に未だに依存しており、特定の状況で発揮されるスキルの特質を十分に捉えることができていない。そこで、本研究では、非認知スキル育成・評価に重大な課題があるとされる数学教育に焦点をあて、その内容・活動の特質に基づいた非認知スキルの評価尺度を開発するプロセスと開発された尺度（数学科、数学世界、現実世界）を示す。今後、これらの尺度を用いて数学教育に固有な非認知スキルと認知スキルの因果性を捉えていく予定である。

<登壇者>

宮崎樹夫（信州大学）

細田幸希（目白大学）

榎本哲士（信州大学）

岩田耕司（福岡教育大学）

14. 文理融合・STEAM教育の意義や価値の共通理解を通じた深化

オーガナイザー：林透（金沢大学）

概要：学校教育・大学教育の現場では、政策誘導による文理融合・STEAM教育の推進に追われ、文理融合・STEAM教育の意義や価値が十分に浸透しているとは言えない。教える立場が試行錯誤すれば、その本質が学習者には伝わらない。以上の問題意識から、本セッションでは、研究メンバー各人の専門性に沿って、文理融合・STEAM教育に関連した取組や成果を紹介し、フロアとの意見交換を通して、文理融合・STEAM教育の現在地を正しく捉え、その意義や価値の共通理解を通じた深化を目指す。

<登壇者>

林透（金沢大学）

定松淳（埼玉大学）

山田寛邦（早稲田大学）

斉藤準（帯広畜産大学）

前田瞬（長崎県立大学）

15. 高等学校理科における「中核概念」に基づくカリキュラム設計とその評価

オーガナイザー：寺田光宏（岐阜聖徳学園大学）

概要：本研究は中等教育理科における資質・能力育成を志向し学習指導要領の「理科の見方・考え方」における「見方」を教科の本質的包括的な「中核概念」と捉え、高等学校及び中学校理科における「中核概念」を在り方とその形成方法を明らかにし、これに基づくカリキュラム開発とその評価を目的とする。本課題研究では、高等学校の物理・化学等における「中核概念」について議論の端緒とするため、仮説形成とその方法論及びこれらの検証及びコンセン

サスを得る方法を検討する。これらに基づき高等学校理科のカリキュラム設計の基盤を構築する。

<登壇者>

遠藤貴広（福井大学）

寺田光宏（岐阜聖徳学園大学）

仲野純章（四天王寺大学）

吉岡亮衛（国立教育政策研究所）

遠藤優介（筑波大学）

加納幹雄（岐阜聖徳学園大学）

16. 数学的モデリング研究の新たな挑戦（1）：市民社会における価値形成や判断・意思決定に果たす役割に着目して

オーガナイザー：峰野宏祐（静岡大学）、川上貴（宇都宮大学）

概要：不確実性が常態化し、意思決定が個人に委ねられる社会へと転換しつつある現代社会において、数学的モデリングが市民社会における価値形成や判断・意思決定に果たす役割は、今日の文脈においてあらためて問い直される必要がある。本課題研究では「数学的モデリング」を主語に据え、市民社会における価値形成や、予測困難な状況における判断・意思決定、リスク社会への対応に算数・数学がいかに寄与しうるかという観点から、その意義に資する授業の在り方を検討する。

<登壇者>

藤原大樹（鳴門教育大学）

峰野宏祐（静岡大学）

山中仁（鳴門教育大学）

杉元新一郎（静岡大学）

<指定討論者>

服部裕一郎（岡山大学）

17. アメリカの NGSS の 4 つの特徴，Equity, データサイエンスとその実践例

オーガナイザー：古屋光一（上越教育大学）

概要：NGSS の授業設計では 3 次元学習が重視されている。本発表では、まずその基盤となる 4 つの特徴を示す。次に、科学教育および STEM 教育における Equity を志向する学習指導の実現に向けた方策について提案する。さらに、NGSS とデータサイエンスとの連携の可能性を示し、教員によるデータ活用の在り方について、アメリカの実践事例を紹介する。最後に、指定討論者が「4 つの特徴」「Equity」「データサイエンス」という 3 つの観点を踏まえ、学際的な科学教育とデータサイエンスとの連携の在り方について論じる。

<登壇者>

古屋光一（上越教育大学）

三好美織（広島大学）

Kenneth L. Huff（Williamsville Central School District, New York）

<指定討論者>

川上貴（宇都宮大学）

18. 日本の科学カリキュラムにおける NOS の意義に関する検討～Science Literacy Vision 2, 3 に向けて～

オーガナイザー：松原憲治（国立教育政策研究所）

概要：中教審の理科 WG で「科学ガイダンス（仮称）」の新設が議論されるなど、日本でも科学カリキュラムにおける NOS の意義や役割に関する具体的な検討が必要となっている。本課題研究では、Science Literacy Vision 2, 3 に向けた諸外国の科学カリキュラムの NOS の位置づけや学習上の扱いを整理した上で、学習指導要領の内容との調和や授業実践の視点から NOS の意義を検討したい。特に、オーストラリアの理科カリキュラムに注目し、会員の発表に加えて、現地の調査官（Simon Collier 氏）からカリキュラム設計の背景や課題等に関する示唆を得る。

<登壇者>

松原憲治（国立教育政策研究所）

越智拓也（成蹊大学）

Simon Collier（オーストラリアカリキュラム・評価・報告機構（ACARA））

伊藤紀章（北海道札幌啓成高等学校）

志田正訓（筑波大学附属小学校）

<指定討論者>

小林一人（国立教育政策研究所）

19. 「理数教育」の今日的な課題：教育場面での新たな視点III

オーガナイザー：安藤秀俊（東京農業大学）

概要：「理数教育」では、科学的な見方・考え方と、数学的な見方・考え方を活用したり組み合わせたりする「融合性」が重視される。しかしながら、実際の教育場面では、理科と数学にはそれぞれ教科の立場があり、その課題の解決は難しい。そこで、現時点で理数教育に関わるトピック的な話題を提供し、理数教育の視点について考察・議論する。

<登壇者>

渡邊耕二（宮崎国際大学）

渡邊新大（三田国際科学学園中学校高等学校）

高須雄一（聖マリアンナ医科大学）

本多武尊（三田国際科学学園中学校高等学校）

金児正史（学習院大学）

20. 学校数学カリキュラムにおける「数学的活動」のアラインメント

オーガナイザー：清水美憲（筑波大学）

概要：学校数学カリキュラムでは、数学的内容に加え、算数・数学の学習プロセス（数学的活動）の基準も設定されている。本課題は、カリキュラムの三層からみた数学的活動のアラインメントを検討する。特に、米国における学校数学スタンダードの影響や「オープンエンドアプローチ」に由来する数学的活動論の特質（「意図」と、授業への実装（「実施」）、全国学力・

学習状況調査や大学入学共通テストの問題作成の枠組みと結果（「達成」）等を多面的に検討する。

<登壇者>

清水美憲（筑波大学）

清野辰彦（東京学芸大学）

川添充（大阪公立大学）

影山和也（広島大学）

小林廉（国立教育政策研究所）

<指定討論者>

清水宏幸（山梨大学）

21. メタサイエンスと科学教育の接点：「科学とは何か」をめぐる学際的アプローチ

オーガナイザー：玉澤春史（京都大学）

概要：科学という現象や営みを研究の対象とする「メタサイエンス」の動きは学術行政や学際研究などで近年活発化している。科学教育などでもこれまで **nature of science** などとして扱われており、両者に共通するものもあるが、両者の接点は意外なほど少ない。科学教育学会の場で知見を共有し議論をすることにより、「科学とは何か」という問いへの対峙の仕方と、各分野への実装の深化を狙う。

<登壇者>

玉澤春史（京都大学）

久保田唯史（明治薬科大学）

井川拓洋（安田学園 安田小学校）

鴈野重之（九州産業大学）

井出和希（大阪大学）

22. 身心一体科学を基盤とした科学教育の新展開 —自己身体の科学的探究から、知の統合と協働的問題解決へ—

オーガナイザー：下郡啓夫（函館工業高等専門学校）

概要：身体と心を一体として科学的に捉える「身心一体科学」を軸に、科学教育の新たな可能性を探る。仰臥位で体幹・下肢の協調を促す10分間の運動プログラムがわずか2週間の実践で神経適応を引き起こし、バランスと敏捷性を改善するという実証知見（Atomi et al., PLOS ONE, 2026）を起点として、自己身体の科学的探究が対話・協働・知の統合にいかにか寄与しうるかを、神経科学・理学療法・芸術思考・STEAM教育の多領域横断的視点から徹底議論する。

<登壇者>

下郡啓夫（函館工業高等専門学校）

跡見順子（電気通信大学）

跡見友章（杏林大学）

跡見綾（東京農工大学）

有賀三夏（金沢大学）

<指定討論者>

向平和（愛媛大学）

23. 日本型 STEAM 教育の実装にむけた理論・実証研究（1）

オーガナイザー：熊野善介（浜松学院大学）

概要：理工・デジタル系人材の養成は第7期科学技術・イノベーション計画においてもその重要性が重ねて言及されるなど、STEM・STEAM教育の充実は日本をはじめ諸外国共通の重要課題の1つだ。本研究では、日本型STEAM教育の実装に向けて、諸外国のSTEM・STEAM教育が求める資質能力を明らかにしながら、国内外での実践事例の分析を通じて、より具体的な日本型STEAM教育のあり方について、理論や実践に関わる議論を深める。

<登壇者>

熊野善介（浜松学院大学/静岡大学）

坂田尚子（静岡福祉大学）

竹林知大（山形大学/ふじのくに地球環境史ミュージアム）

小坂那緒子（東京大学）

黒田友貴（多摩大学/静岡大学）

<指定討論者>

興直孝（日本海洋科学振興財団）

24. デザイン研究としての数学的問題設定の授業開発：小・中・高等学校，教育行政，大学における教育者と研究者の協働

オーガナイザー：辻山洋介（群馬大学）

概要：学校教育の目標や実践において、広く「子どもが問いや問題を立てること」が重視されている。本研究は、「数学的問題設定」の過程に着目し、算数・数学の教科の特性を踏まえた授業デザインの枠組みの構築および授業の開発に、小・中・高・行政・大のメンバーが協働的に取り組んでいる。本課題研究では、研究全体をデザイン研究の視点から特徴付ける試みと、小・中学校での授業の設計・実践を報告し、研究上の成果と課題を検討する。

<登壇者>

辻山洋介（群馬大学）

花園隼人（宮城教育大学）

草刈誠（宮城教育大学附属中学校）

小泉泰彦（つくば市立みどりの学園義務教育学校）

金子智（坂城町立坂城中学校）

<指定討論者>

小松孝太郎（筑波大学）

25. 科学概念を統合する教科横断的アプローチ — テキスト資源の比較分析から —

オーガナイザー：田中元（秀明大学学校教師学部）

概要：本課題研究では、多様なテキスト資源を言語計量的手法で比較分析し、理科を中心とする学習者の科学概念形成を「教科横断」の視点から捉え直した上で知見を持ち寄って議論する。理科と家庭科の連携、ニュース記事の教材化、学習指導要領を起点とする教科間連携の解析、

教育相關論文を活用した理論的検討, および教員養成段階での実装事例を共有し, 科学概念統合型の教科横断的カリキュラムの理論と実践を架橋する.

<登壇者>

田中元 (秀明大学学校教師学部)

鈴木哲也 (東京未来大学こども心理学部)

小林久美 (東京未来大学こども心理学部)

<指定討論者>

大山光晴 (秀明大学学校教師学部)

26. グローカル性の観点から統計を活用した算数数学カリキュラムの基礎理論の構築 (2)

オーガナイザー: 馬場卓也 (広島大学)

概要: 21 世紀社会における数学科カリキュラムをグローバル化の影響 (グローバル性) とローカルな社会的ニーズ (ローカル性) の視点から再考する. 2025 年度は, 3 つの事例を取り上げて議論した. 今回は理論的考察を深めるため, 現地調査は海外の事例 (2026 年 4 月, インドネシア) を取り上げ, 理論的考察 (批判的数学的リテラシー, 地域教材 (Muatan Local), 統計教育) と事例を往還しながら, 考察を深めていく.

<登壇者>

馬場卓也 (広島大学大学院人間社会科学研究科)

高阪将人 (福井大学)

Nur Robiah Nofikusumawati Peni (UNIVERSITAS AHMAD DAHLAN)

Dini Asri Kusnia Dewi (Darul Hikam Integrated School)

日下智志 (鳴門教育大学)

福田博人 (岡山理科大学)

<指定討論者>

杉野本勇氣 (香川大学)

27. 中高におけるデータサイエンスの実践と現状の課題

オーガナイザー: 辻宏子 (明治学院大学)

概要: データサイエンスのニーズが高まる中, 高等学校のデータサイエンスは, 基本的な知識や技能などを育む数学科と, 統計を活用して問題解決する力を育む情報科とで教科横断的に学ぶカリキュラムとなっている. しかしながら, 両者を往還させる授業実践は発展途上であり, 授業デザインの開発と評価が求められる. 本課題研究では, 登壇者が高校生や中学生を対象に実践したデータサイエンスの理論的・実践的な取り組みを紹介する. そして, 現状の課題を明らかにしながら, データサイエンスの在り方について議論することを目的とする.

<登壇者>

辻宏子 (明治学院大学)

林兵馬 (神戸大学附属中等教育学校)

塩澤友樹 (芝浦工業大学)

北澤武 (青山学院大学)

<指定討論者>

杉本雅則（北海道大学）

田島玲（LINE ヤフー研究所）

(4) 一般研究発表

一般の口頭発表形式のセッションです。次のセッションの研究発表の場を設定します。

科学教育論	教育実践・科学授業開発
科学教育政策	教育方法と評価
国際比較・国際貢献（国際支援）	教材開発
高等科学教育	IT・メディア利用の科学教育システム
科学教育課程	科学教育連携システム
科学認識	科学教育人材養成
科学的学力・能力	科学教育の現代的課題
科学教育各論	

*なお、発表申込等についての詳細は「11. 発表申込等について」をご覧ください。

*オンラインでの発表を希望される方は、上記すべてのセッションを統合した「オンライン専用の発表部屋」での発表となりますことをご了承ください。

(5) インタラクティブセッション

対面でのポスター発表もしくは実演紹介の形態で、研究内容についてインタラクティブにじっくりと語り合う場です。詳細は「11. 発表申込等について」をご覧ください。

(6) 創立 50 周年記念行事

学会創立 50 周年を記念する行事として「ラウンドテーブル」と「小中高生の探究発表」を開催します。また、国際交流委員会が開催する「国際ランチョンミーティング」に中高生の参加も参加できるように企画しております。詳細は次の Web サイトをご確認ください。

<https://jsse.jp/jsseam/jsse50/jsse50th-event>

※「ラウンドテーブル」「小中高生の探究発表」「国際ランチョン・ミーティング」それぞれ申込先、問合せ先が異なりますのでご注意ください。

【ラウンドテーブル】

学会員、教育関係者、一般の方、高校生、中学生が一緒になって、未来の社会をみつめ、科学と教育について議論するラウンドテーブルです。

[テーマ] 科学と教育と多様性

[日 時] 2026 年 9 月 13 日（日） 13 : 00～15 : 00

[対 象] 学会員、教育関係者、一般の方、高校生、中学生

[参加申込締切] 2026 年 8 月 13 日（木）（先着 50 名）

ファシリテーターをしてくれる方も募集しています。申込の際に希望欄を選択してください。中学生・高校生がファシリテーターとして参加することもできます。

【小中高生の探究発表】

小学生・中学生・高校生のみなさんが、日頃の探究の成果を学会で発表する場です。年会のインタラクティブセッション（研究者や大学生・大学院生のポスター発表）と一緒に開催します。学会員のみなさまは、小学生・中学生・高校生の探究発表を聞いて、是非、コメントやアドバイスをお願いします。

[日 時] 2026年9月13日（日） 9:00～11:00

[対 象] 小学生，中学生，高校生

[募集件数] 合計 50 件（同一の学校は 5 件程度）

[発表形式] ポスター発表（サイズ A0） ポスターを作成して、発表当日に持参してください。

[発表・参加申込締切] 発表申込：2026年6月19日（金）

参加申込：2026年8月13日（木）

【国際ランチョンミーティング】

年会2日目の9月12日（土）昼食時間に、国際交流委員会が「国際ランチョンミーティング」を開催します。海外からの留学生や訪問者も含め、学会員と一般参加者が、海外の学会での発表経験や国際的な科学教育研究について語り合う機会です。第50回年会では中学生・高校生の参加も可能です。

[日 時] 2026年9月12日（土） 12:30～13:45

参加方法等の詳細はこのレターの「国際交流委員会だより」をご覧ください。

<https://jsse.jp/jsseam/jsse50>

(7) 若手活性化委員会：ワークショップ

日時：9月11日（金）15:15～17:15

企画：参加者同士の交流会

テーマ：# もっと交流したいです

内容：昨年度の年会若手企画でご好評いただいた「#交流したいです」がパワーアップして帰ってきました！題して、「#もっと交流したいです」。本企画は、とにかく「交流」するワークショップです。若手会員に特になじみのある話題が書かれたカードを利用することで会話の障壁を減らしつつ、科学教育に関わる研究や実践の歩みを今後共にするであろう仲間との一段深い関係形成を目指します。チャッピーとはできない交流がここにある…！！

(8) 国際交流委員会：国際ランチョン・ミーティング

日時：9月12日（土）12:30-13:45（対面開催，事前登録者には軽食（昼食）を提供します。）

参加方法：8月28日（金）までに事前登録または当日参加

事前登録は下記 URL の Form よりお申し込みください。

<https://forms.gle/Cn4YJL7hzn8tXbZx6>

事前登録は 40 名までとさせていただきます。

創立 50 周年記念行事に関わり，中学生・高校生（引率教員・保護者を含む）も参加可能ですが，申し込みは引率する教員または保護者が行ってください。

テーマ：国際共同研究について

内容：今年は、国際共同研究をテーマとして、そのご経験が豊かな2名の先生から話題提供していただき、その後、グループトークを含む参加者交流を予定しています。また、2026年11月に予定されている英語による研究会のご案内も行います。

11. 発表申込等について

- ・発表申し込みの際には、「参加受付番号」の入力が必要になります。参加申し込み（年会 Web サイトの参加・発表申込用リンク参照）を先に済ませた後、メールで通知いたします「参加受付番号」を確認して、発表申し込みを行ってください。
- ・2026年10月以降に年会論文集の原稿を J-STAGE に掲載します。
- ・原稿提出締め切り期日を厳守してください。原稿提出締め切り期日後は、年会論文集や J-STAGE への掲載も含めて、学会側の瑕疵を除き、修正や差し替えができませんことをご了承ください。

(1) 課題研究発表の原稿提出

特定のテーマについて徹底的に議論できる場とします。

<スケジュール（予定）>

- ・原稿提出期間：2026年5月27日（水）～6月19日（金）【オーガナイザー → アップロード】
※6月19日（金）は、登壇者がオーガナイザーに原稿を提出する期限ではありません。この日は、年会企画委員会への提出期限であり、「JSSE 年会申込 Web サイト」から原稿をアップロードしてください。提出方法については、従前どおり、オーガナイザーが登壇者全員分をとりまとめてアップロードする方法、または登壇者自身が各自でアップロードする方法のいずれかによりご提出ください。

<原稿提出方法>

- ・年会Webサイト掲載の方法で、「JSSE年会発表申込Webサイト：<https://jsse.lab.hatak.jp/>」から必要事項を記入の上、完成原稿（発表1件あたり4ページまたは2ページ）のPDFファイル（1ファイル約1MB未満、セキュリティなし）を提出（アップロード）してください。

(2) 一般研究発表・インタラクティブセッションの申込・原稿提出

<スケジュール（予定）>

- ・申込及び原稿提出期間：2026年5月27日（水）～6月19日（金）
※申込と原稿提出を同時に行ってください。
※期日等に変更が生じた場合は、学会Webや科学教育研究レターなどで通知します。

<申込及び原稿提出方法>

- ・年会Webサイト掲載の方法で、「JSSE年会発表申込Webサイト：<https://jsse.lab.hatak.jp/>」から必要事項を記入の上、完成原稿のPDFファイル（1ファイル約1MB未満、セキュリティなし）を提出（アップロード）してください。
- ・書式や留意事項等の詳細は、「日本科学教育学会 年会論文集 執筆要項」をご覧ください。

<資格・登壇可能件数>

- ・登壇者資格：会員でなければなりません。
※本欄における「会員」とは、学会事務局が入会申込書の受付を済ませていることを意味します。ただし、発表申込及び原稿提出期間と年会開催日程が学会の事業年度（毎年7月1日から翌年6月30日）をまたぐため、

入会申込書の受付を済ませた者の入会時期（入会手続きの完了時期）については、発表申込及び原稿提出期間の年度ではなく、年会在開催される新年度からの入会でも可とします。

- ・登壇者として申込可能な一般研究発表・インタラクティブセッションの件数は、各1件です。なお、一般研究発表・インタラクティブセッションの登壇者は、課題研究、その他の企画にも登壇することができます。

<発表時間>

- ・一般研究発表の持ち時間は20分程度（発表15分、質疑・討論5分）を予定しています。
- ・インタラクティブセッションは2時間の発表時間を設定する予定です。

(3) 年会論文集原稿の執筆内容に関する留意事項

原稿執筆にあたっては、次の要件を満たすように心がけてください。

◆研究領域

日本科学教育学会の会員が関心を持つ研究領域の研究である。

◆主題または問題の所在

問題の所在が明快である。

◆研究の背景

関連研究、依拠する理論、関連する実践等によって、研究の背景が明示されている。

◆研究の方法

研究の方法論、手順、計画などが適切で、それらが明示されている。

◆結果と知見

得られた結果、知見、アイデア等が明示されている。

◆結論

問題の所在に即した結論や課題が明示されている。

12. 年会的開催形態等について

- ・第50回年会は、現地での対面開催を基本とします。ただし、課題研究発表は対面とオンラインを組み合わせたハイフレックス開催も可としますが、その準備や運営については登壇者にさせていただきます。
- ・一般研究発表は対面での発表部屋とは別に、オンライン専用の発表部屋を設定する予定です（オンラインでの参加者は、対面での発表部屋には参加できないなどの制限があります）。インタラクティブセッションは、対面のみで実施します。
- ・オンラインでの参加・発表については、各自でオンライン会議システムZoom等のミーティングID、及び利用できる機器（パソコン・タブレット、イヤホン、マイク、モバイルWi-Fiルータ等）の準備をお願いします。
- ・論文集は、電子的方法にて配布いたします。
- ・オンラインで参加され、発表される方は、発表申込用サイトで「オンライン発表」を選択してください。なお、開催日当日も含め、オンライン参加から対面参加（またはその逆）に変更いただくことは可能ですが、発表につきましては、発表申し込み締め切り期日（6/19）を過ぎますと、オンライン発表から対面発表（またはその逆）に変更することはできません。
- ・オンラインで参加される場合、参加費は対面参加と同じ金額です。オンライン専用の発表部屋における一般研究発表、招待講演、シンポジウム、総会のみに参加できます（いずれもライブ配信のみです）。課題研究発表、インタラクティブセッション、対面での発表部屋における一般研究

発表には参加できませんのでご注意ください。若手活性化委員会企画及び国際ランチョンミーティングへのオンライン参加の可否につきましては、別途お知らせいたします。

- ・運営の都合上、オンライン参加に対する会場準備や突発的なトラブルへの対応が難しく、オンラインでの配信につきましては限定的となります。参加者のみなさまが安心して参加いただけるように、対応可能な範囲で準備しておりますこと、ご理解の上、協力いただけましたら幸いです。
- ・会期中に台風・地震の災害が起こった際など、中止や開催方法の変更等の対応につきましては、開催校である東京大学の規定等を準用して判断し、年会 Web サイト等を通じてご案内します。
- ・9月11日（金）は大学内の食堂等が営業しています。12日（土）、13日（日）は食堂等は営業していませんのでお弁当を販売いたします。ご希望の方は「JSSE 参加申込用サイト」にて注文をお願いします（注文期限：7月31日（金））。

13. 参加費・懇親会費

- ・参加費、懇親会費については会員種別・支払日に応じて、表1、表2の通りです。
- ・申込先：年会 Web サイトの参加申込用リンクからお申し込みください。

表1. 参加費一覧表

会員種別	参加費（事前）	参加費（通常）
正会員・シニア会員	7,000 円	9,000 円
学生会員	4,000 円	5,000 円
非会員（学生以外）	9,000 円	11,000 円
非会員（学生）	6,000 円	7,000 円
支払期限	7月31日（金）	8月31日（月）
支払方法	クレジットカード払い 銀行振込	クレジットカード払い 銀行振込

表2. 懇親会費一覧表

会員種別	参加費（事前）	参加費（通常）
正会員・シニア会員	6,500 円	8,500 円
学生会員	4,500 円	5,500 円
非会員（学生以外）	7,500 円	9,500 円
非会員（学生）	5,500 円	6,500 円
支払期限	7月31日（金）	8月31日（月）
支払方法	クレジットカード払い 銀行振込	クレジットカード払い 銀行振込

※参加費には、年会論文集ダウンロード案内が含まれています。

※支払方法：年会 Web サイトに掲載の方法で送金してください。手数料はご負担ください。

※参加費、懇親会費の支払いは、8月31日（月）までの申込の場合はクレジットカード払いと銀行振込が利用できます。振込先口座番号は、申し込み画面にて確認できます。

※9月1日（火）以降も申込が可能です。但し、9月1日（火）以降は、クレジットカード支払いのみ受け付けます（現金・振込でのお支払いは不可）。また、懇親会の当日の申込可否は受付にて判断します。なお、当日申込可能な場合も、支払いはクレジットカードのみとなります。

※懇親会につきましては、お申し込み多数の場合、受付期間中であってもお申し込みを締め切らせていただく場合がございます。

※申込後のキャンセルの場合、理由の如何を問わず、返金はできかねますので予め承知願います。

14. 宿泊の斡旋

・斡旋の予定はありません。各自で手配いただきますようお願いいたします。

15. 託児サービス

・会期中の託児サービスの実施を予定しております。詳細については、web サイトにてご案内いたします。

16. 第 50 回年会実行委員会

委員長 大島 まり (東京大学)

委員 川越 至桜 (東京大学), 上田 史恵 (東京大学), 樗木 悠亮 (東京大学)
玉澤 春史 (京都大学/東京大学), 沼田 宗純 (東京大学), 森 晶子 (東京大学)

17. 年会企画委員会

委員長 服部裕一郎 (岡山大学)

副委員長 福田博人 (岡山理科大学), 畠山 久 (東京科学大学)

幹事 石橋一昂 (岡山大学)

担当理事 大谷 忠 (東京学芸大学), 山本智一 (兵庫教育大学)

委員 安部洋一郎 (兵庫大学), 新井しのぶ (中村学園大学), 岡部 舞 (大阪教育大学),
小野寺かれん (岡山大学), 川越至桜 (東京大学), 川崎弘作 (岡山大学),
木村優里 (東京科学大学), 小泉健輔 (横浜国立大学), 平林真伊 (山形大学),
増田有紀 (埼玉大学), 谷田親彦 (広島大学), 山中真悟 (福山市立大学),
山本輝太郎 (金沢星稜大学)

2025 年度研究会開催のお知らせ

今後の開催計画

開催支部/委員会	開催日	発表申し込み締切日	会場
国際交流委員会	終了しました	終了しました	オンライン
若手活性化委員会	終了しました	終了しました	大阪教育大学 天王寺キャンパス (一部オンライン)
東北支部	終了しました	終了しました	秋田大学 手形キャンパス
北陸甲信越支部	終了しました	終了しました	富山大学
北関東支部	終了しました	終了しました	埼玉大学
四国支部	終了しました	終了しました	鳴門教育大学
中国支部	終了しました	終了しました	岡山大学

研究会に関する最新情報は学会 Web ページに掲載しますので、ご確認ください。

※右の QR コードより、学会 Web ページ（研究会案内）にアクセスできます。

<https://jsse.jp/1-3>



2026年 教科「理科」関連学会協議会（CSERS）シンポジウムのご案内

1 テーマ

これからの時代に求められる『実力ある理科教員』とは
—資質向上のために学会は何ができるか—

2 目的

科学技術立国としての基盤を支える理科教育の充実は、我が国の喫緊の課題です。しかし現在、教員のなり手不足と採用倍率の低下は深刻化しており、教員確保を優先するあまり養成・採用のハードルが下がり、十分な実力を有しないまま教壇に立ってしまう現状が指摘されています。その一方で、教育現場では「観察・実験指導の自信不足」「探究学習への対応」「ICT活用」など、理科教員に求められる資質能力は高度化・複雑化しています。本シンポジウムでは、教科「理科」関連学会協議会（CSERS）6学会がそれぞれの立場から教員の資質向上のために学会は何ができるかを提起します。「量」の確保と「質」の維持という難題に向き合いながら、「実力ある理科教員」とは具体的にどのような能力を持つ者か、そしてその育成のために各機関がいかに連携（協働）すべきかについて議論を深め、実効性のある育成モデルを模索します。

3 主催

教科「理科」関連学会協議会（CSERS）：

初等・中等教育における教科「理科」の内容の検討にあたり、その構成、目標、内容および内容の取り扱いに関して、関連学会間の意見交換、及び調整をはかり、学校教育のよりよい発展を目指すことを目的とした教科「理科」教育関連学会6学会で（日本物理教育学会、日本化学会/教育・普及部門、日本生物教育学会、日本地学教育学会、日本科学教育学会、日本理科教育学会）構成されている。

4 対象

小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校の教職員及び管理職、
教育委員会の指導主事等、関係職員、大学等の研究者、教職課程の学生、
その他、本フォーラムの趣旨に関心のある方

5 日程

2026年6月28日（日）13:00～16:30

6 会場

対面（東京大学 生産技術研究所：駒場Ⅱリサーチキャンパス）及びオンラインによるハイブリッド形式

7 プログラム(予定)

13:00～13:20	開会挨拶 片山 豪（CSERS 議長/日本生物教育学会）
13:25～13:40	「日本地学教育学会の取り組みについて」 川村教一（日本地学教育学会/兵庫県立大学）
13:40～13:55	「理科の学習指導の実力を高めるために」 藤井浩樹（日本理科教育学会/岡山大学）
13:55～14:10	「若手教員を対象とする化学実験研修会の取り組みから『探究的な学びの実践コミュニティ』の創出・拡大に向けて」 今井泉（日本化学会/岐阜聖徳学園大学）
14:20～14:35	「物理教育レクチャーシリーズの発信から出版へ」 今井章人（日本物理教育学会/早稲田中学・高等学校）
14:35～14:50	「理科教師の pedagogical content knowledge とは何で、どのように育成するか」 越智拓也（日本科学教育学会/成蹊大学）
14:50～15:05	「生物教育研究のコミュニティとしての学会が理科教員の資質能力の向上に果たす役割」 渡邊重義（日本生物教育学会/熊本大学）
15:15～16:25	パネルディスカッション
16:25～16:30	閉会挨拶 高橋 修（CSERS 委員/日本地学教育学会）

8 参加申し込み

Peatix URL : <https://csers2026.peatix.com>

申込締切：2026年6月19日（金）※定員（対面100名，オンライン250名）に達し次第，締切となります。

9 その他

アーカイブ配信は行いません。

国際ランチョンミーティングのお知らせ

年会2日目の9月12日（土）昼食時に、国際交流委員会が「国際ランチョンミーティング」を開催します。海外からの留学生や訪問者も含め、学会員と一般参加者が、海外の学会での発表や国際的な科学教育研究について語り合う機会です。第50回年会では中学生・高校生の参加も可能です。

今年は「国際共同研究」をテーマとして、そのご経験が豊かな2名の先生から話題提供をしていただきます。その後、グループトークを含め、参加者の皆様の交流を予定しております。11月ごろに予定している英語による研究会等のご案内も行います。ぜひご参加ください。

○日時：9月12日（土）12:30-13:45（予定）

○プログラム：

ICASE参加報告

ゲストトーク：国際共同研究について

熊野善介先生（宮城教育大学・静岡大学）、真野祐輔先生（広島大学）

参加者交流セッション

○参加資格：

第50回年会参加者はどなたもご参加いただけます。オンライン配信はありません。中学生・高校生（引率教員・保護者を含む）も参加可能です。

引率教員・保護者が第50回年会の他のプログラムに参加する場合は、年会参加申込（有料）が必要です。年会のすべてのプログラムに参加できます。

○参加方法：8月28日（金）までに下記Formより事前登録ください。当日の参加も可能です。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdoYoGsiszbxlbgGevNbg0Rnlq0d7qMQeKhBVs_Pd_Lhk_eR8Q/viewform

○事前登録をいただいた方には、軽食（昼食）を国際交流委員会にてご用意いたします。事前登録は昼食数の関係で40名までとさせていただきます。当日参加も可能です（当日参加の場合は昼食の提供はございません）。

2026 年度第 1 回日本科学教育学会研究会（国際交流委員会開催）

開催予告

2025 年度に引き続き、2026 年度第 1 回研究会（国際交流委員会開催 英語による研究会）を 2026 年 11 月 14 日（土）にオンライン（Zoom 利用）にて開催します。この研究会は、科学教育研究について、会員の皆様が英語で発表する場を設け、国際的な発信を促すとともに国際交流を活発化することを目的として、論文掲載、一般発表、および講演をすべて英語で行います。

これまで国際学会等に参加したことがない方でも安心してご参加いただけるように、一般発表では、トラブル時など日本語でサポートできるように準備をしていますので、多数の皆様のご積極的なご参加をお待ちしております。

○日時：2026 年 11 月 14 日（土）9:00-12:00（予定）

○開催方法：Zoom によるオンライン開催

○研究会のプログラム概要

<海外の研究者によるゲストトーク>

2 名の研究者をお迎えし、ゲストトークを行います。

<英語による一般発表>

英語による研究発表を行います。初めての方も大歓迎です。

なお、研究会終了後に情報交換会の開催も予定しております。

○発表・参加申込について

学会 Web サイトの本研究会ページ等で後日、ご案内いたします。

なお、発表・参加申込等は以下のスケジュールを予定しております。

発表予備申込と参加申込の受付開始：2026 年 9 月中旬

発表申込（正規）・原稿提出期限：2026 年 10 月 15 日（木）厳守

参加申込期限：2026 年 11 月 9 日（月）

前回から発表申込（正規）と同時に原稿提出と原稿料支払いが必要となっておりますので、ご注意ください。

国際学会開催情報

PME49 (The 49th Conference of the International Group for the Psychology of Mathematics Education)

開催地：Helsinki, Finland

期間：2026年7月27日-8月1日

<https://www.helsinki.fi/en/conferences/pme49>

ICOTS12 (The 12th International Conference on Teaching Statistics)

開催地：Brisbane, Australia

期間：2026年7月12-17日

<https://communities.isi-web.org/event-icots12>

CERME15 (The 15th Congress of the European Society for Research in Mathematics Education)

開催地：Bratislava, Slovakia

期間：2027年2月8-12日

<https://www.cerme15.org>

ICTMA-23 (The 23rd International Conference on the Teaching of Mathematical Modelling and Applications)

開催地：Skukuza, South Africa

期間：2027年8月22-27日

ESERA (European Science Education Research Association) Conference 2027

開催地：Málaga, Spain

期間：2027年8月27日-9月3日

ICME-16 (The 16th International Congress on Mathematical Education)

開催地：Prague, Czech Republic

期間：2028年7月9-16日

<https://www.icme16.org/>

第 50 回 日本科学教育学会年会 若手企画（予告）

2025 年 9 月 11 日(金) ～13 日(日) に東京大学（駒場 II リサーチキャンパス）で開催される第 50 回年会において、大会初日の 9 月 11 日(金) の午後に、若手活性化委員会による企画を以下の通り開催します。

テーマ：#もっと交流したいです

趣旨：昨年度の年会若手企画において、「#交流したいです」を企画しました。「研究とプライベートのバランスをどう考えていますか?」「論文の執筆が進まないときどうしていますか?」など、若手会員に特になじみのある話題が書かれたカードを使って、専門とする領域やキャリア段階の異なる参加者がスムーズに意見交流できるように企図されたものでした。

参加者からも大変に好評をいただいたこの企画を、50 周年記念となる本年会において、よりパワーアップさせ、参加者相互の一層の交流を促進するものとして実施します。題して、「#もっと交流したいです」！科学教育に関わる研究や実践の歩みを今後ともにするであろう仲間との、一段深い関係形成を目指します。

昨年度の企画と同様、今回もテーマに「#」を付けています。これは SNS で使われるもので、同じことがらに関心を持つことを示すハッシュタグ記号です。若手活性化委員会では、50 周年という大きな節目を迎える本年会の中で、多様なバックグラウンドをもつ方々が気軽に参加・交流できる場を設けることにも意義があると考えています。チャッピー（ChatGPT）などの対話型 AI サービスとはできない対面での交流企画、ぜひご参加ください。

参加申込要領：

- ・申込期間：当日まで（後日、申込フォームを開設します）
- ・申込方法：学会ウェブサイト年会ページ内の若手活性化委員会企画を参照

スタートパーティーについて

年会初日の 9 月 11 日(金) の夕方に、若手研究者の交流の活性化を図る「スタートパーティー」を開催予定です。詳細は後日「若手活性化委員会企画」のウェブページにてお知らせいたします。

<その他>

若手活性化委員会では、論文執筆に関して気軽にノウハウを学ぶことができるオンデマンド動画「Tips 動画」を YouTube 上で公開しています。「文章の書き方」「先行研究の調べ方」「本の読み方」「イントロの書き方」「考察の執筆で大切にしたいこと」等など、役立つ Tips を動画で学ぶことができます。ぜひご視聴ください。

https://www.youtube.com/playlist?list=PLIXmLhKl7Y2tumBx1LX_GCPbCghsc3LeS

上のリンクは一般公開シリーズです。会員限定公開シリーズについては、メール等でリンクをお知らせいたします。

また、研究会に関わる情報は学会 HP のほか、若手活性化委員会 Facebook ページやメーリングリストで随時公開していきます。どうぞご期待ください。

Facebook ページやメーリングリストの登録は、随時、受け付けています。ぜひご登録ください。

○若手活性化委員会 Facebook

<https://www.facebook.com/jssewakate/>

○JSSE 若手研究者メーリングリスト登録 URL

<https://goo.gl/tClQb4>

(愛知教育大学：袴田綾斗)

若手研究者、「初心」を語る

私たちは、教育・研究に携わる者として、人々を魅了し、遠くまで届く強い言葉、強いストーリーを描くことを求められる。そうした公共空間での言葉とは異なり、しかし地続きでもある私的な空間においては、それぞれが別の言葉を抱えている。本コーナーでは、寄稿という機会がなければ人知れず胸の内に留められていたかもしれない言葉を、様々に語っていただいた。それぞれの「初心」の告白には、書き手の秘めたる想いや人間味がにじみ、人の心を揺さぶる力があることを改めて感じた。

空気の澄んだ場所では、遠くからでも見える一等星の強い光だけではなく、小さな無数の光の存在に気づき、その全体の美しさに息を呑むことがある。本コーナーを通じて、これまで見えていなかった光、あるいは見ようとしてこなかった光の存在に触れ、科学教育研究の傘のもとに集う人々の息づかいを感じる機会をいただいたように思う。

2023年10月から続けてきた本コーナーは、今月号をもって一旦の区切りを迎える。最終回は、若手活性化委員会委員長の岡本先生にご寄稿いただいた。彼女の放つ強い光は、多くの人を知るところだろう。しかし、本稿にはそれとは異なる、けれど確かに彼女らしさを感じる光が示されている。近くで共に時間を過ごしてきた者として、それをとても愛おしく思う。

またいつか別の形で、こうした光の存在を大切にすることが拓れることを願っている。これまでご寄稿くださった皆様、そしてご愛読くださった皆様に、心より感謝申し上げます。

私の課題

大阪大学 岡本紗知

私はグループワークが得意ではない。

協働学習がもてはやされ、教員として推奨すべき立場ではあるものの、自分が苦手だという意識は消えない。

人と一緒に何かをやるには、アイデアを共有しなければならないし、自分のペースで進めるわけにも行かない。複数の人間がプロジェクトに関わるのであれば、自分が飽きてしまっても途中で投げ出すわけにはいかない。

社会人として組織に所属するようになると、「頭出し」「根回し」「決済」などというよくわからないステップがあることを知り、「みんなで一緒に足並みを揃えましょう」という強いメッセージを感じて、何かをやり始める前に萎えてしまうことも少なくない。

だからこそ、研究は基本的に一人で行うし、論文も一人で書く。

こういう人間なので、「ぜひ若手活性化委員会の委員長に」と声をかけていただいた時には戸惑った。本音を言うと、それまでの委員会の活動では、若手といえども周りよりも年齢が上だったこともあり、ニコニコして人当たりの良い側面を存分に出して乗り切ろうくらいに思っていた。「こんな自分が委員長になって本当にいいんですか?」「途中で飽きて辞めれませんよね・・・?」という思いが頭を巡った。そして、小学生の頃に「さっちゃんに渡すと止まるから」と言われ、クラス女子の交換日記グループに入れてもらえなくなった記憶が蘇った。

逡巡しつつ、まあ人生とは発達課題を乗り越えるためのものですよね、という諦めに近い気持ちになり、覚悟を決めてというような潔さとはほど遠い気持ちのまま、委員長を拝命することになった。

で、委員長をやってみてどうだったかという、ただひたすら迷惑をかけまくったことを自覚している。まず人に仕事を振るのが苦手だということを再確認した。「みんな忙しいし、急に振られても迷惑だよね・・・」と思って躊躇するうちに時間だけが過ぎてしまう。またスケジュール管理ができず、特に担当理事の先生方におんぶに抱っこそのままの1年半だった。そして自分の締切の感覚がおかしいこともまた再確認した。MBTI診断ではINFPに該当する人間なので、締切には良くも悪くも「柔軟」である。このレター原稿を執筆する今も、忍耐強く待ってくださっているレター担当の先生には感謝の気持ちしかない。

なんて凸凹の多い人間なのだろうと落ち込むことも多いなか、委員の先生方、特にいわゆる「執行部メンバー」の先生方には本当にあらゆる面で支えていただいた。グダグダと思いを綴る私とは違ってスパッと論点を整理してくださる先生、業務がうまく回せずに落ち込んでいる時にDMで寄り添ってくださる先生、全体を俯瞰して代わりに采配をしてくださる先生、モヤモヤしている時にガス抜きに付き合ってください先生、精神的な余裕のない時に代わりに委員をリードしてくださる先生、常にそして着実に業務をこなして安心感をくださる先生・・・

就任時には見えていなかった自然な役割分担がそこにはあった。それは、時とともに形を変えながらもそこにあり続けた。そして「大人の本気」が垣間見えた瞬間が何度もあり、感動した。

というわけで、委員長に就くことで、自身の発達課題を乗り越えられたという実感はない。ある意味、自分にできないことを再認識するだけの1年半だったようにも思う。

そして今、ああ、こうやって組織は回るのだな・・・と実感している。

組織とは有機的なつながりである。当たり前だが、関わる人にはそれぞれ本務や家庭生活があり、ライフステージに応じた悩みや葛藤がある。しかし、組織としては、滞りのない一連の活動として外部に見せなければならない。だからこそ、ひとつの組織は、そんな個別の事情を補い合い、互いの負荷を吸収し合える塊である必要がある。一緒に業務に携わるということは、人間同士の衝突を前提とする。その衝突が起きたとき、そこに生じる他者からの感情やストレスを互いにかに受け止め、昇華させるのが、その組織の存続を左右する。組織に属する人たちがみな居心地よく感じ、一人ひとりが安心して力を注げる場所がそこにあり続けるには、何ができるのだろうか・・・

委員長のポストを担って気づいたのは、「グループワーク」が想定を遥に超える深い世界だったということである。このことに気づかせてくれたのが、私にとってはこの委員会という場だった。新しく見えてきたこの「グループワーク」を率いていく自信はまったくない。しかし、立場的にも今後はそういう機会が増えていくのだろう。私の新しい発達課題として心に留め置き、いつか乗り越えられる日がくればと願う。

だが、論文はこれからも一人で書き続けるだろう、とも思う。

2025 年度第 3 回編集理事会報告

2025 年度第 3 回編集理事会は、2026 年 6 月 1 日に、オンライン会議システム Zoom を利用した遠隔会議で開催された。まず、J-STAGE 投稿審査システムの運用・利用用件改定の方向性について、種々議論の上、継続審議となった。続いて、オープンアクセスジャーナル化に関わる論文投稿規程等の改訂の検討状況について報告された。その後、特集（学会創立 50 周年：50 (2)+51 (2)）の編集状況、特集「次世代を担う若手研究者の科学教育研究（2026 年 12 月発刊予定）」（第 50 巻，第 4 号）の編集状況などが報告された。

次回の編集理事会は、2026 年 9 月の年会期間中に、対面会議での開催が予定されている。

特集投稿募集のお知らせ

編集委員会では、下記の主旨で、「科学教育研究」第50巻第2号および第51巻第2号での特集を企画します。研究論文、総説、展望、資料、プラザ、全ての種別の原稿を募集いたします。ふるってご投稿のほどお願い申し上げます。

なお、投稿規定により、「科学教育研究」への投稿論文は、筆頭著者が日本科学教育学会の会員である必要がありますので、その点ご注意ください。

編集委員長・特集編集部部长 青山和裕

記

特集名：科学教育研究の集積と未来への架橋

日本科学教育学会が学会創立50周年を迎える現在の社会は、地球温暖化、生物多様性の喪失、人口動態の変動が現在進行形で加速し、不平等の拡大や社会の分断、人類の福利への脅威に関する難題に直面し、生成AIの出現・発展など大きな転換点を迎えている。今後の社会において求められる資質・能力とはなにか、あるいは人間が学ぶとはどういうことか、その中で学校・教育はどのような役割を果たすべきかといったことについて向き合っていかななくてはならない。科学教育の未来に向き合うために、これまで科学教育研究に取り組んできた先人の努力・研鑽、蓄積について形にすることで今後の飛躍のための堅固な土台を築きたい。

こうした趣旨のもと、本特集では、第50巻第2号および第51巻第2号にわたる2年連続特集として、「科学教育研究の集積と未来への架橋」をテーマに掲げ、広く投稿を募集する。本特集では、教科の枠組みに基づく研究成果の集約にとどまらず、AIやデータサイエンス、STEM/STEAMなど、教科横断的・学際的な視点による論考や、システムティックレビュー、ナラティブレビューなど、多様なアプローチによる提案を歓迎する。これまでの研究を振り返り、その知見を未来に活かすため、多くの投稿を期待する。

特集部会の構成メンバー

部部长：青山和裕（愛知教育大学）

副部部长：西村圭一（東京学芸大学）

特集編集部会委員：清水美憲（筑波大学）、大谷忠（東京学芸大学）、大貫麻美（白百合女子大学）、中村大輝（宮崎大学）ほか

【第51巻第2号について】

事前申込締切：2026年9月30日

*査読プロセスを円滑に進めるため、特集は投稿前に「事前申込」を設けております。

* 投稿を予定している方には誠にお手数ですが、著者名・所属、タイトル、論文種別、E-mail アドレス、電話番号、連絡先住所を jsse-hen [atmark] nacos.com までお送りください。

* 「第 51 巻第 2 号」の特集への投稿であることをお書き添えください。

* 事前申込せずに投稿する場合は、投稿締め切りまでにご投稿ください。

投稿受付開始：2026 年 7 月 1 日

投稿締め切り：2026 年 10 月 31 日

* 特集に投稿する場合は、投稿システムの「手順 6: 設問」画面の「掲載号」で「特集号」を選択してください。

* 査読は、10 月 31 日以降、順次開始します。

発刊予定：2027 年 6 月（51 巻 2 号）

投稿論文の取り扱い

第 51 巻第 2 号の刊行までに採択されない投稿論文については、一般論文としての査読を継続いたしません。

ただし、その際には、査読システムの実態上、改めて一般論文として新規投稿していただきます。

以上

1. 新規投稿論文 (2026.4.1～2026.5.31) : 39 編

【内訳】

和文 22 編

英文 0 編

2. 査読中論文 (2026.5.31 現在) : 39 編

【内訳】

著者に差し戻し中 (受付前) : 1 編

担当編集委員選出中 : 0 編

査読者選出中 : 2 編

査読者諾否待 : 0 編

査読中 (1 回目) : 10 編

担当編集委員による第 1 審総合判定中 : 8 編

改訂稿待ち : 9 編

査読中 (2 回目) : 5 編

担当編集委員による第 2 審総合判定中 : 1 編

編集委員長による最終判定中 : 3 編

3. 掲載決定論文 (2026.4.1～2026.5.31) : 10 編

【内訳】

研究論文 : 5 編

総説・展望 : 3 編

資料 : 1 編

プラザ : 1 編

【合計】

50-2 号 : 5 編 (通算 13 編)

50-3 号 : 4 編 (通算 4 編)

51-2 号 : 1 編 (通算 1 編)

4. 投稿状況及び掲載決定状況の推移（2023.5.1～2026.5.31 現在）

(2026年5月31日 現在)

	新規投稿論文数（編）		審査中（編）		掲載決定論文数 （掲載号）		掲載不可論文数 （見なし取り下げを含む）	
	和文	英文	和文	英文	和文	英文	掲載不可	取り下げ
2023年 5月	11	0	43	0	0 (47-2)	0 (47-2)	11	2
					3 (47-3)	0 (47-3)		
2023年 6月	6	0	41	0	3 (47-3)	0 (47-3)	4	0
					1 (47-4)	0 (47-4)		
2023年 7月	5	1	39	1	1 (47-3)	0 (47-3)	3	1
					2 (47-4)	0 (47-4)		
2023年 8月	8	0	36	0	0 (47-3)	0 (47-3)	7	0
					5 (47-4)	0 (47-4)		
2023年 9月	4	1	29	1	6 (47-4)	0 (47-4)	5	0
					0 (48-1)	0 (48-1)		
2023年 10月	18	0	36	1	5 (47-4)	0 (47-4)	5	0
					1 (48-1)	0 (48-1)		
2023年 11月	20	0	53	1	0 (47-4)	0 (47-4)	1	2
					0 (48-1)	0 (48-1)		
2023年 12月	4	0	52	1	1 (48-1)	0 (48-1)	4	0
					0 (48-2)	0 (48-2)		
2024年 1月	7	0	51	1	0 (48-1)	0 (48-1)	6	2
					0 (48-2)	0 (48-2)		
2024年 2月	13	0	53	0	2 (48-1)	0 (48-1)	7	0
					2 (48-2)	1 (48-2)		
2024年 3月	21	0	55	0	5 (48-2)	0 (48-2)	5	4
					0 (48-3)	0 (48-3)		
2024年 4月	26	0	56	0	6 (48-2)	0 (48-2)	15	1
					3 (48-3)	0 (48-3)		
2024年 5月	10	0	43	0	1 (48-3)	0 (48-3)	17	1
					1 (48-4)	0 (48-4)		
2024年 6月	9	0	42	0	0 (48-2)	0 (48-2)	5	0
					5 (48-3)	0 (48-3)		
2024年 7月	7	0	41	0	1 (48-3)	0 (48-3)	5	1
					1 (48-4)	0 (48-4)		
2024年 8月	3	0	31	0	0 (48-3)	0 (48-3)	6	0
					7 (48-4)	0 (48-4)		
2024年 9月	2	0	21	0	0 (48-3)	0 (48-3)	7	0
					5 (48-4)	0 (48-4)		
2024年 10月	19	0	32	0	2 (48-4)	0 (48-4)	5	0
					1 (49-1)	0 (49-1)		
2024年 11月	13	1	34	1	0 (48-4)	0 (48-4)	9	0
					2 (49-1)	0 (49-1)		
2024年 12月	2	0	28	1	0 (48-4)	0 (48-4)	7	0
					1 (49-1)	0 (49-1)		
2025年 1月	9	0	27	0	0 (49-1)	0 (49-1)	10	1
					0 (49-2)	0 (49-2)	(うち英文1)	
2025年 2月	10	0	32	0	2 (49-2)	0 (49-2)	2	1
					0 (49-3)	0 (49-3)		
2025年 3月	7	0	32	0	5 (49-2)	0 (49-2)	2	0
					0 (49-3)	0 (49-3)		
2025年 4月	23	0	46	0	3 (49-2)	0 (49-2)	5	0
					1 (49-3)	0 (49-3)		
2025年 5月	7	1	44	0	0 (49-2)	0 (49-2)	7	1
					2 (49-3)	0 (49-3)		
2025年 6月	5	0	34	0	4 (49-3)	0 (49-3)	10	1
					0 (49-4)	0 (49-4)		
2025年 7月	10	0	36	0	1 (49-3)	0 (49-3)	6	0
					1 (49-4)	0 (49-4)	(うち英文1)	
2025年 8月	13	1	41	0	0 (49-3)	0 (49-3)	5	1
					3 (49-4)	0 (49-4)		
2025年 9月	6	0	31	0	5 (49-4)	0 (49-4)	9	2
					0 (50-1)	0 (50-1)		
2025年 10月	11	0	31	0	1 (49-4)	0 (49-4)	9	0
					1 (50-1)	0 (50-1)		
2025年 11月	11	1	40	1	0 (49-4)	0 (49-4)	2	0
					0 (50-1)	0 (50-1)		
2025年 12月	10	0	45	0	1 (50-1)	0 (50-1)	4	0
					0 (50-2)	0 (50-2)		
2026年 1月	4	0	37	0	2 (50-1)	0 (50-1)	8	0
					2 (50-2)	0 (50-2)		
2026年 2月	11	0	39	0	1 (50-2)	0 (50-2)	7	1
					0 (50-3)	0 (50-3)		
2026年 3月	28	0	56	0	5 (50-2)	0 (50-2)	5	1
					0 (50-3)	0 (50-3)		
2026年 4月	19	0	60	0	5 (50-2)	0 (50-2)	9	0
					1 (50-3)	0 (50-3)		
2026年 5月	3	0	39	0	3 (50-3)	0 (50-3)	16	4
					1 (51-2)	0 (51-2)		

広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第 278 号をお届けします。一般社団法人日本科学教育学会の広報活動についてお気づきの点などがございましたら、学会 Web サイトにある「お問い合わせ」をご利用のうえ、お知らせください。

担当理事： 大貫麻美（白百合女子大） 向 平和（愛媛大）

委 員： 内ノ倉真吾（鹿児島大） 辻山洋介（群馬大） 舟生日出男（創価大）
中村大輝（宮崎大） 日下智志（鳴門教育大） 増田有紀（埼玉大）
袴田綾斗（愛知教育大）

幹 事： 谷塚光典（信州大） 村田翔吾（日本体育大） 後藤みな（山形大）

科学教育研究レター編集 日本科学教育学会広報委員会

一般社団法人日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

URL : <http://www.jsse.jp>

□ 事務局 中西印刷（株） 学会部 内

TEL : 075-415-3661 FAX : 075-415-3662

E-mail : [jsse \[at mark\] nacos.com](mailto:jsse[at mark]nacos.com)

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

□ 編集事務局（論文投稿・査読編集）

TEL : 075-415-3155 FAX : 075-417-2050

E-mail : [jsse-hen \[at mark\] nacos.com](mailto:jsse-hen[at mark]nacos.com)

中西印刷（株） 学会部 内

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

郵便振替口座：00170-6-85183 一般社団法人日本科学教育学会

銀行口座：みずほ銀行 京都中央支店 普通 2419484 一般社団法人日本科学教育学会